

## 2023年度活動総括（案）

23年度で前半は、安保3文書に端的に示された岸田政権による「大軍拡」路線を批判する運動が中心でした。2023年5月に開催された広島サミットを「帝国主義諸国会議、または核兵器肯定諸国会議」と規定して、戦争準備体制への参加宣言会議を問い続け、広島サミットに反対する運動を続けました。安保3文書は、サミットに向けた「戦争ができる国」に向けての国内体制作りと言えます。

その実態は、軍事＝軍拡ばかりではなく戦争を進めるために社会構造の転換を図るものでした。2022年5月には日本の経済力・技術力を軍事に活用する経済分野での「戦争法」ともいえる、経済安保法の成立、住民監視・住民運動つぶしの「土地規制法」の成立。外務省が、同志国と位置付けた国々に、無償軍事援助を行うOSA（政府安全保障能力強化支援）の創設。そして、2024年5月には、秘密保護法を民間企業などに拡大する「経済安保情報保護法」の成立、そして陸海空自衛隊全体を指揮統制する常設の統合司令部を創設するための「自衛隊法改正」が参議院で審議されています。自衛隊の軍事力強化と度重なる日米軍事演習（アメリカとだけではない）と、戦争をするために市民の権利と制約と監視社会の実現、経済・社会まるごと戦争体制に向かう社会へと進んでいます。2023年はそのことに対して警鐘をならし、この動きを一步でも止めようと不十分ながら活動をしてきました。2024年も引き続き課題としていきます。

後半は、10月7日のハマスによるイスラエルへの越境攻撃を契機に、いまま続くパレスチナガザ地区へのジェノサイドに反対する取り組みでした。不戦ネットの取り組みとしてパレスチナ問題は2008年末から2009年にかけてイスラエルによるガザ攻撃の際に活動をして以来取り組んできませんでした。75年間、故郷を追われ「天井のない監獄」と言われていたガザが、今は「絶滅収容所」（岡真理さん「ガザとは何か」）と言わざるを得なくなっている状況です。その間も、様々なできごとがあつたにも関わらず関心を持ち活動を継続させてこなかったことに対しては忸怩たる思いがあります。昨年10月からとにかく声をあげなければと、街宣を呼びかけ、その呼びかけに集まった方たちで「ガザ緊急アクションなごや」を結成し継続して活動をしています。そして、この運動の中で国内の課題につながっているということも明らかになりました。

2023年度の基本方針は、自民党内のハト派と言われてきた岸田首相の安倍を超える軍拡路線の拡大に対決していくことでした。以下、2023年の活動を振り返ります。

### ①自公政権の大軍拡に反対する（社会まるごと軍事化）

2023年3月から「安保3文書」を批判する連続講演会を開催しました。1回目は、「安保3文書と広島サミットを問う」をテーマに清末愛砂さん、2回目は「横須賀・横浜の基地の動きと安保3文書」をテーマにすべての基地にNO！を・ファイト神奈川の木元茂夫さん、3回目は阿部太郎さんを講師に「経済安保法と安保3文書」で開催しました。

5月19日から22日まで開催された広島サミットに対しては、「G7広島サミットを問う市民の集い」実行委員会が呼びかけた現地での集会・デモに参加しました。また、市民の視点でG7に政策提言をするNGOに賛同しました。

8月の「平和のための戦争展」では、「社会まるごと戦争体制」というテーマでパネル展示をし

ました。また、11月には、長距離ミサイルの製造工場である三菱重工小牧北工場、共同開発される次期戦闘機を製造する三菱重工小牧南工場、小牧基地など愛知の軍需産業・基地ツアーを行いました。初めて現場を見た方も多く愛知で基地や軍需産業などを身近に知ることができたという感想がありました。また、同じ11月には「武器取引反対ネットワーク」の杉原さんを講師に殺傷武器の取引についての学習会を開催しました。

土地規制法については、2023年9月の第3回目の指定で、県営名古屋空港、小牧基地、守山駐屯など県内9カ所が指定されました。指定地域にあたる名古屋市、豊山町、春日井市、小牧市、豊川市に対して質問状を提出しました。回答の多くは「国防に関することは国の専管事項」というもので、地方自治の責務や精神を尊重しないものでした。日本全国約600ヶ所の指定が完了しました。引き続き、自治体に対しての働きかけが必要と考えています。

反省としては、様々な課題が立て続けにあって、力量的にも十分に対応することができなかったことが反省です。

②これまで同様、関係諸団体と連携し、活動を進め、ネットワークの幅を広げる努力をします。

1) あいち沖縄会議の構成団体として活動をしました。

昨年は、3月に「沖縄の今を伝える写真展 NO MORE 沖縄戦」、10月には「南西諸島の今を伝える写真展」と2回の写真展を、市民ギャラリー栄で各1週間開催しました。延べ600人余り

の方が参加していただきました。沖縄の実態、南西諸島の島々の軍事化の一端を伝えられたと思います。沖縄では、「沖縄を再び戦場にしない NOMORE沖縄戦命どう宝の会」が立ち上がり、集会等を企画しています。それに連帯し、5月の沖縄での平和集会の開催に連帯した集会、11月21日の県民大会には、沖縄現地の集会に参加するとともに愛知でも街頭宣伝を行い連帯行動を行いました。辺野古新基地建設は、沖縄県と国の裁判で、沖縄県の敗訴が確定し、代執行によって大浦湾の埋め立てがはじまりました。これに先立ち、7月には平和市民連絡会の北上田さんに裁判の現状を聞く講演会の開催、今年1月には大浦湾の埋め立て開始に対する抗議街宣を行いました。その他、毎月第3日曜には定例街宣を継続しています。辺野古大浦湾の埋立開始後も、辺野古ゲート前や海上行動、安和や塩川での抗議行動が粘り強く継続されています。

軟弱地盤や活断層の問題、南部からの土砂搬出、サンゴなど希少な生物への影響など辺野古の問題は何一つ解決されていません。私たちも粘り強く辺野古の新基地建設が無謀で無断な工事であることを訴えていきたいと思えます。

さらに、南西諸島に配備されるミサイルが愛知では製造されます。ミサイルの開発、配備反対の運動と連係した運動が必要と考えます。

2) 「韓国併合」100年東海行動の構成団体として活動をしました。

毎年行っている、3・1企画は、植民地支配下の徴用工について強制労働を否定した「明治産業革命遺産」のユネスコ世界遺産登録などの問題で、強制労働を研究している竹内康人さんの講演会を行いました。また、昨年は、関東大震災から100年の年にあたり、7月には「隠された爪痕」「払い下げられた朝鮮人」の2本の映画の上映会、8月の戦争展では「飴売り具學永」の著者である金鐘洙さんの講演会、9月1日には「<不逞鮮人>とはだれか 関東大震災下の朝鮮人虐殺を読む」の著者の劉永昌さんの講演会を行いました。3回の企画は、ブックレット

として販売しています。9月17日の日朝平壤宣言21周年の企画は康宗憲さんを講師に講演会を行いました。今年2024年の3.1企画は映画「主戦場」の上映会を行いました。日本の歴史改ざん、歴史否定の流れは止まっていません。日朝平壤宣言実現も、岸田首相は掛け声ばかりで1mも進んでいません。歴史を忘却するものは再び過ちを犯します。正しい歴史認識に基づいた日朝・日韓関係の見直しのために引き続き活動をしていきます。

③戦争をさせない1000人委員会あいちの参加団体として活動しました。

1000人委員会は、あいち平和フォーラムも参加する団体で、沖縄の基地問題などを中心に連携

した運動をしてきましたが、去年は十分な連携ができませんでした。

④あいち総がかり行動の加盟団体として活動をしました。

毎月行われる19行動を中心にあいち総がかり行動の運営と企画に参加しました。愛知の地で、より大きな運動を作る必要があることから、引き続き活動をしていきます。

⑤名古屋NGOセンターの加盟団体として引き続き協力を進めました。

「みんなの市民サミット2023」に参加し、分科会「『ラリー』と『ロビイング』のあいだで ～市民社会とG7の関わりを問い直す～」に参加しました。

名古屋NGOセンターの政策提言委員として、開発協力大綱改定やOSA創設への提言活動に参加しました。

⑥ガザ緊急アクションなごやの構成団体として活動をしています。

冒頭に書いたように、昨年10月からガザ緊急アクションなごやの呼びかけ団体として、毎週デモ（3月からは隔週）、週1の街宣、イスラエルからの殺傷ドローンの輸入代理店への抗議行動などを継続しています。緊急アクションは、ガザ攻撃を止めるために「緊急」に集まったもので、当面は「停戦」までとしています。その後の活動は改めて議論をしながら進めたいと思います。